

「5・7・5」でつくる 言葉のスケッチ

俳句活動担当 荒木 真美

今年度も、東五位っ子は、人と人との関わりを大切にし、身の回りの自然や事象をみつめ感動する心や思いやりの心をもった児童の育成を目指して、俳句作りに取り組んできました。

俳句とは何か？その答えは簡単で、『季語を入れた“五・七・五拍”十七音の最短の詩』です。俳句の対象は、自然そのもの（花鳥諷詠）で、ありのままの自然の姿を描き出す（客観写生）ことを目的としています。また、俳句は余韻を大事にするため、季語を必ず入れなければいけません。上学年の児童は季語を考えながら、下学年の児童は感じたままの素直な気持ちをイメージしながら創作しています。児童の句からは、子供らしく、自分ならではの感受性を持ち、17音の中に自分の思いを表現しようとする工夫を感じます。17音という条件があるからこそ、その1つ1つの言葉にこだわり、言語感覚が豊かになっていくのでしょうか。また、自分だけの発見や感動を俳句に表す、友達と鑑賞し合う、このような活動を繰り返す中で、心は豊かに育ってきています。東五位っ子は、学校の伝統の中で、着実に俳句づくりの種を自分なりに育んでいます。

俳句教室や毎月の添削指導をしてくださる坂田先生からは、いつも次のようなアドバイスをいただきます。「感情語を表す言葉はできるだけ使わないで」「一俳句一季語を原則に」「俳句は写生であり、今日の前にあるものを詠むように」「当たり前なことではなく、自分らしさができるように」

隔年に発行している俳句集は、この度、巻十四の発刊となりました。一句一句に込められた、子供たちの心の動きや言葉やリズムの工夫を十分に感じ取り、ゆっくりと読んでいただけたら幸いです。

俳句作りポイント



- (リ) (ズ) (ム) ・ ・ 5 ・ 7 ・ 5 という 17 音
- (き) (ご) ・ ・ ・ (季節をあらわすことば) を入れて
- (き) (れ) (字) ・ ・ ・ (句の意味をきるはたらき) の効果を！

かな、し、よ、つ、に、けり、ぞ、せ、ぬ、ぞ、や等

出典：「まんがで学ぶ俳句・短歌」国土社

みんなで力を合わせた「五位っ子元気活動」

教務主任 関 洋之

今年も、子供たちは5月の運動会から「五位っ子元気活動」に取り組み、学年を越えて同じ色団の一員として力を合わせて交流を図ってきました。年間総合優勝を目指し、一人一人が自分のもてる力を発揮することができました。子供たちも中間の結果が気になるらしく、体育館への行き帰りに足を止め、友達と色団の掲示板をながめている姿がよく見られました。

そして迎えた3月2日の元気活動表彰式。結果は、青団と黄団の総合優勝となりました。その後、縄跳び運動「二重跳び」のエキシビションを行いました。低学年は連続20回以上、中高学年は連続30回以上跳べる子供たちが技を披露しました。これまでの練習の成果を発揮し、力強くかつ軽快に縄跳びをする姿が見られました。

この一年間の継続的な活動を通して、「思いやりの心を持ち、交流できる子」「運動が大好きな子」が、これからもどんどん増えることを願っています。



	赤	青	黄
運動会総合成績	1 P	2 P	3 P
運動会応援合戦		1 P	
運動会綱引き		1 P	
水泳大会	2 P	3 P	1 P
ランニング大会	2 P	1 P	3 P
なわとび大会	1 P	2 P	3 P
総合	3 位	1 位	1 位

